

ダイバーシティ& インクルージョン



フタバ産業株式会社

代表取締役社長 吉貴 寛良 氏

教育随想



令和4年6月1日
6月号
発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

- 教育随想…………… 1
フタバ産業株式会社
代表取締役社長 吉貴 寛良 氏
- この人に聞く…………… 2
プロラグビー選手
田村 優 氏
- 羅針盤…………… 2
豊富小学校
校長 倉地 耕治
- ふれあい…………… 3
六ツ美北中学校
教諭 国分 貴寛
- 特集…………… 4
人々が集まる駅を目指して
～出会いの駅 岡崎～
- お知らせ…………… 6
- フォト・ヒストリー… 8
第1回 学区文化祭(昭和48年)
- この本を…………… 8

「ダイバーシティ」と「インクルージョン」という言葉をご存知でしょうか？近年ダイバーシティ(多様性)という言葉はよく使われますが、インクルージョン(包摂)・多様性を受け入れ活かしていくことについてはまだあまり理解が浸透していません。のではないかと感じています。

弊社においても、グローバル化による海外出向者の増加や少子高齢化による人手不足を補う外国人労働者の受け入れが増加しており、ダイバーシティ&インクルージョンの推進が、会社の健全な運営と成長に不可欠なものとなっています。

私は家族帯同のアメリカ駐在を三回経験し、現地の日本人補習授業校の理事長も務めました。渡米時に家族が現地の生活に馴染むことは大変

でしたが、子供にとつては帰国後に日本社会に順応することの方がもっと大変でした。その一例が学校の受け入れ態勢です。アメリカの中学や高校ではESL(English as a Second Language)の略。英語が母国語でない生徒のための教育プログラム)があり、外国人生徒を受け入れる体制が整っていました。しかし、帰国後は、言葉の問題や教育カリキュラムの違いにより公立高校への編入は難しく、日本人でも海外で長く暮らすと日本社会への再適応が簡単ではないことを実感しました。

少子高齢化の進む日本においては、外国人や帰国子女などが社会の構成員としていきいきと生活し、働くことのできる仕組みや土壌を作り上げていくことが不可欠だと思



ます。学校教育だけでなく、企業や地域社会が共に協力して「ダイバーシティ」と「インクルージョン」の実現に向けた取組を進めていきたいと思います。

(よしき ひろよし)



先生との出会いが子供を育てる

プロラグビー選手

田村 優氏

國學院栃木高校入学と同時にラグビーを始め、明治大学を経て、NECグリーンロケッツに加入する。その後、スーパーラグビーのハイランダーズ、サンウルブズでの経験を経て、二〇一七年にキャノンイーグルスへ移籍、プロラグビー選手としての活動を始める。現在は、横浜キャノンイーグルスのキャプテンを務めながら、日本代表の司令塔としても活躍中。

— 中学卒業後、県外の高校に進学してラグビーを始めたきっかけは —

中学校卒業まで続けたサッカーでは、僕よりも上手な選手がたくさんいて、なかなか勝てないだろうと予想していたのですが、自分の想像以上に良い結果を残すことになりました。

た。しかし、このままでは、自分か井の中の蛙になるのではと感じました。そこで環境を変えようと、サッカー以外の競技を選ぶことを決め、岡崎市を離れました。

ラグビーを選んだのは、サッカーで鍛えた能力や経験を生かせるのではと思ったからです。父はトヨタ自動車でラグビーの監督を務めた経歴をもっていますが、ラグビーを勧めるのではなく、常に僕の意思を尊重してくれました。でも、不思議なことに、このころには、ラグビーをしたいと考えるようになっていました。

— これまで、何度も壁を乗り越えたことと思いますが、どうやって乗り越えましたか —

練習はハードでしたが、そこから逃げたいと感じたことはありません。だから、壁にぶつかったと感じたこともありませんでした。

高校時代の恩師である吉岡先生にはボールの捕り方などの基礎を丁寧に、何度も教えていただきました。先生は「取り組み方がすべて」という言葉を頻繁に使われました。その言葉を聞くたび、チームが勝つために、自分がうまくなるために、何にどう取り組むべきなのかを自分自身に問う機会となりました。僕はその教えを忠実に守り、試合に負けたりよいパフォーマンスができなかったりした時、そこから逃げずに、見て見ぬ振りをせずに自分が取り組むべきことに向き合ってきただけです。

先生との出会い、そしてこの言葉は、今でも僕の財産となっています。

その後も海外からの方を含め、多くの指導者と出会う機会に恵まれました。今の日本代表監督からは試合後に「失望した」と声をかけられ、けんかになったこともあります。でも、そういう指導者がいてくれたからこそ、自分に甘えることなくここまでやってこれたのだと思います。

— 自分で選んだ道を力強く歩む子供に育てるために、我々教師がするべきことは何だと思いますか —

僕はこれまで、好きなラグビーを好きにだけやってきました。そして今後もモチベーションのある限り、現役でありたいと考えています。

そんな僕が先生方に望むことは、子供たちができるだけ選択の幅を広げ、自分で判断することを促してあげてほしいということです。スポーツは強制されるものではありません。子供たちの可能性を否定せず、のびのびやらせてあげてほしいと思います。しかし、子供ですから失敗することもあります。そんな時こそ子供を導いてくれる先生との出会いが子供を育てると考えます。



田村 優

(たむら ゆう)

平成二年

一月九日生まれ

梅園小—甲山中

探究を止めるな

豊富小学校

校長 倉地 耕治



かつて、四年生の子供たちと乙川に来るユリカモメを観察した。夕方どこかへ飛び去る姿を見て、ねぐら探しが始まった。簡単にはいかず私も子供たちも行き詰まった。ついには、同僚の先生と車でユリカモメを追いかけた。行き着いたのは矢作川の河口。碧南火力発電所の前だった。二十五年が過ぎた今も、あの夕暮れの景色は昨日のこのように思い出される。「総合的な学習の時間」がスタートする直前だった。ここから、地域を教材にして、地域に学ぶ実践に魅せられてきた。

「総合的な学習の時間」の本質は「探究的な学び」である。課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現という探究の過程が、単元を通して繰り返される。

課題を自分事として捉えて本気で



大きな一歩は仲間と一緒に

六ツ美北中学校

教諭 国分 貴寛

「すれ違っても挨拶しないでほしい」
中学校入学の際に、保護者を通して
伝えられたAさんの思いはあまり
にも衝撃的であった。それを受けて、
一年生の時は声かけを控えていた。

だが、二年生になって担任となっ
た私は、登校しづらいAさんに学校
生活の楽しさを感じてほしいと思
い、声をかけていくことを決心した。
家庭訪問や、その際に渡す学級通
信を通して、Aさんとの関係づくり
に努めた。初めは会えなかったが、
会うことができるようになり、次第
に目を見て話せるようにもなった。
そんなAさんにとって大きな転機と
なったのが合唱コンクールだった。
私は楽譜とCDを渡し、「練習がで
きたらしてみてね」と伝えた。その
後も「歌い出しの部分を実習したよ」
「パートリーダーがこんな話をして

いたよ」「練習がうまくいかなか
たと悩んでいたよ」など熱を帯びて
いく学級の様子を伝え続けた。Aさ
んから気持ち直接聞いたわけでは
ないが、保護者から「学級のことが
気になるみたいで、隠れて練習して
いるんですよ」と聞き、嬉しかった。

そんなある日、学級では合唱をさ
らに盛り上げていくために話し合っ
ていた。「三十六人全員で当日を迎
えたい」「全員の心を一つにしてが
んばりたい」という思いでまとまっ
た。その「全員」という言葉には当然
Aさんも含まれていた。私は、今こそ
隠れて練習しているAさんの思いと
仲間の思いが重なる時だと確信した。
私は、すぐに仲間の想いを届けた。
その時、Aさんも練習しているのか
尋ねると、小さな声だったが「して
います」と答えた。私は思い切って
「本番当日、教室に来てみないか」
と誘ってみた。Aさんは長い沈黙の
後、「考えてみます」と答えた。

本番当日、Aさんは登校すること
はできたものの、教室に入ることは
できず、体育館の観客席に着いた。
そして学級の合唱が始まると、瞬き
もせず、静かに仲間の姿を見つめて
いた。結局、揃って合唱台には立つ
ことはなかったが、同じ瞬間を共有
できたことが本当に嬉しかった。

帰りの会が始まる頃、Aさんを教

室に誘ってみた。一瞬、不安そうな
表情を浮かべたが、次の瞬間「行き
ます」と力強く答えてくれた。

教室に姿を現したAさんのもとに、
仲間が最高の笑顔で集まってきた。
学級代表が「最後に全員でもう一度
歌おう」と呼び掛けた。その輪に加
わったAさんが、学級の仲間ととも
に歌った初めての瞬間だった。「三十六
人全員で当日を迎えたい」「全員の
心を一つにしてがんばりたい」とい
う願いを叶えた、まさしくその時、
Aさんは大きな一歩を踏み出した。
「みんなの合唱はすごかったし、一
緒に歌えて本当によかった」と記さ
れた当日のAさんの生活の記録。初
めての合唱は、Aさん心の中でいつ
までも響き続けると私は信じている。



立ち向かう子供たちは、自分の頭で
考え、自分の足で動き出す。そして、
他者とそれぞれの考えや思いを伝え
合う中で自分の探究をさらに充実さ
せていく。結論が見えてきた頃には、
次の新たな課題が浮かび上がる。そ
のような学習を通して、子供たちは
協働的な学びのよさを体感し、達成
感や自己有用感を味わう。

時が過ぎ教材は変わっても、子供
が探究する姿は変わることがない。
現在、MYタブレットが配付され、
チーム学習が進み、子供たちの学び
は、一人一人に最適化されたものへ
進化している。積極的に学びに向か
う子供の姿も確実に増えてきた。

一方で、それぞれの教科・領域に
おける資質・能力の育成を見失って
はいけない。タブレットやチーム学
習は、そのための学習方法である。
子供たちはこれから先、答えのない
困難な時代を生き抜いていかなけれ
ばならない。総合的な学習が目指す
「探究的に学ぶことを通して自己の
生き方を考えていくための資質・能
力」は、いっそう重要になるに違
いない。未来を生きる子供たちに、今
こそ「探究を止めるな」と伝えたい。
乙川では、このごろオオバンに出
会う。オオバンは幸せを運ぶ鳥とい
われる。幸せな未来につながる学び
を子供たちと創りたいものである。

人々が集まる駅を目指して ～出会いの駅 岡崎～



明治二十一年、農村地だった羽根村に国鉄岡崎駅が開業した。駅の誕生によって、その周辺には多くの工場や倉庫が建ち、村は人や物資の集まる賑やかな場所へと変化した。

その後も、この地は駅を核とした交通の拠点として、東岡崎駅周辺の岡崎城下の中心市街地とは異なる歴史、文化を育みながら、めざましい発展を遂げた。

しかし、太平洋戦争により、この二つの駅には、大きな差異が生じることになった。東岡崎駅周辺は、昭和二十年の空襲で甚大な被害を受けた。復興のための整備が行われ、車社会に適応した、道路拡幅工事などの街づくりが行われた。一方で、岡崎駅周辺は被害がなかったことで、再開発の波から取り残されてしまうことになったのである。

しかし、「街を元気にしたい」という人々の願いによって状況は変化した。昭和四十三年には岡崎駅の東西を対象とした区画整理事業が、平成八年にはシビックコア地区整備事業が始められた。さらに平成十六年には事業者や企業経営者が中心となって「Plan Do 岡崎」を立ち上げ、「まちづくりコンセプト」を作成した。それを新たな組織「出会いの駅おかざき推進協議会」（現在の「出会いの駅おかざき」）が、具体的な活動につなげ、現在に至る。

今後も「街を元気にしたい」という人々の願いが、人の集まる魅力あふれる駅づくりを支え、岡崎駅周辺地域は発展を続けるだろう。

岡崎駅周辺地域の変遷



岡崎駅
(昭和51年)



▲ 区画整理事業決定当時の岡崎駅
(昭和43年頃)



▲ 開業当初の岡崎駅 (明治21年)
【岡崎市立中央図書館所蔵】

写真で見る駅周辺の歴史

▼人々が集まる駅に（駅マエ縁日）



▼ステージイベント（駅マエ★フェス）



▼町全体が舞台に（出会いの小径）



「街を元気にしたい」という思いから生まれた 駅に人を集めるための様々な取組



▲魅力ある駅構内（駅ナカ横丁）



▲心安らぐ空間（出会いの杜公園）



▲地域企業を応援（オカパン&ボンマル）

- 明治二十一年 羽根村に国鉄岡崎駅開業
- 明治二十二年 戸崎、柱、針崎、若松の四村を合併し、岡崎村が誕生
- 明治三十二年 岡崎駅と殿橋間に岡崎馬車鉄道開通
- 昭和三年 岡崎村が岡崎市に合併、駅を核としてさらに発展
- 昭和五年 日本初の省営自動車岡多線路線バス開業
- 昭和三十七年 岡崎馬車鉄道(路面電車)廃止
- 昭和四十三年 駅周辺の区画整理事業計画が承認される
- 昭和五十一年 駅西部区画整理工事着工
- 平成三年 駅東部区画整理工事着工
- 平成八年 シビックコア地区整備事業計画が建設省に認可される
- 平成十六年 合同庁舎、シビックセンター建設
- 平成二十年 「Plan Do 岡崎」が発足
- 平成二十九年 「出会いの駅おかざき推進協議会」現在の「出会いの駅おかざき」発足
- 平成二十九年 結婚式場やイベントホールの建設
- 平成三十年 出会いの杜公園
- 令和元年 ペDESTリアンデッキの完成



▲ ペDESTリアンデッキ完成 現在の岡崎駅（令和元年）



▲ シビックコア地区整備事業計画認可 シビックセンター建設（平成8年）



▲ 区画整理着工当時の



令和四年度の研究発表表

本年度の研究発表表は、市委嘱の発表校が三校、自主発表校が一校である。

○市委嘱研究発表校

- ・岡崎市立梅園小学校(全教科)
「未来を自分らしく生き抜く子供」
- 「30年後を見据えた新しいキャリア教育の創造」

十一月九日(水)

- ・岡崎市立大門小学校(全教科)
「学ぶ楽しさを実感し、学び続ける子どもの育成」
- 「一人も取り残さない「個別最適な学び」を実現するチーム学習を核にして」

十月十九日(水)

- ・岡崎市立東海中学校(全教科)
「自ら未来を切り拓く生徒の育成」
- 「ファシリテーションを核としたチーム学習を通して」

十月二十六日(水)

○自主研究発表

- ・竜海中学校(全教科)
「わかる学習指導 第十二次研究(4年次)」
「自ら学び続ける生徒の育成」
- 「読む」「書く」の充実を図り、『わかる』の実感を強める学習指導を中心に」

十一月二日(水)

- ・愛知教育大学附属岡崎中学校
九月二十七日(火)

- ・愛知教育大学附属特別支援学校
十一月十一日(金)

- ・愛知教育大学附属岡崎小学校
十一月十七日(木)

十八日(金)

表彰

- ◆第二十九回愛知県ヴォーカール・アンサンブルコンテスト(中学校部門)
- 【最優秀賞】 六ツ美北中
- 【金賞】 竜海中



●小中学校のようす

令和四年度岡崎市内の小中学校の概要(五月一日現在)である。

昨年度と比較すると、一校当たりの児童・生徒数の平均は、小学校が四名の減少で、中学校が四名の増加となった。通常学級数は、小学校は十二学級増加、中学校は一学級増加である。特別支援学級数は、小学校が十三学級増、中学校は増減なく昨年度と同数である。

岡崎市内の小学校の全児童数は、一六五名減少し、中学校の全生徒数は、一〇〇名増加した。総数では、六十五名の減少となった。

教員数は、三十四・五名(再任用ハーフは〇・五人としてカウント)の増加となった。再任用教諭は九十二名(実数)である。

教員補助者は二五四名である。そのうち二名は、養護教諭支援員である。小学校英語指導補助者(S.T)は二十五名、外国語指導助手(A.L.T)は、三十二名である。

●学年別児童・生徒数(人)(令和4年度5月1日現在)

学年	小学校						中学校		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
男	1,808	1,832	1,858	1,898	1,897	1,968	1,962	1,875	1,913
女	1,820	1,670	1,743	1,815	1,863	1,830	1,762	1,768	1,699
計	3,628	3,502	3,601	3,713	3,760	3,798	3,724	3,643	3,612

●学校・学級の規模

	小学校	中学校
1校当たり児童・生徒数	468人	548人
通常学級数	726学級	309学級
特別支援学級数	182学級	68学級

●児童・生徒・教職員数(人)(令和4年度5月1日現在)

区分	学校数	学級数 (内特別支援)	児童・生徒(人)			校長・教頭・教諭(人) ※再任用教諭・臨時的任用講師(欠員補充)を含む ※養護教諭を含まない	養護教諭・職員(人)	事務職員(人)	養護教諭(人)
			男	女	計				
小学校	47	908 (182)	11,261	10,741	22,002	1,186	8	59	50
中学校	20	377 (68)	5,750	5,229	10,979	672.5	4	29	23
合計	67	1,285 (250)	17,011	15,970	32,981	1,858.5	12	88	73

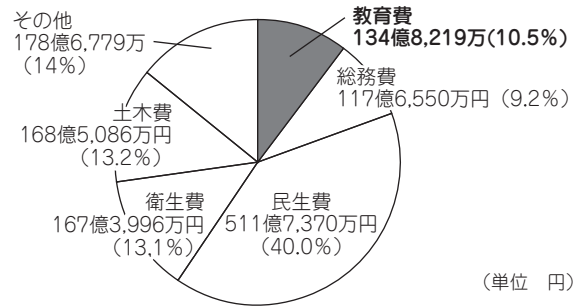
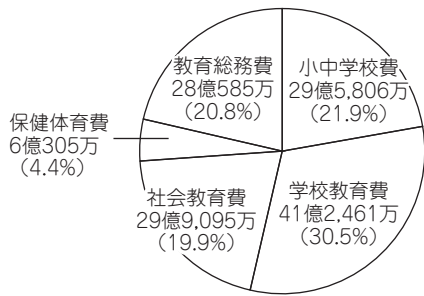
(再任用ハーフは0.5カウント)

令和4年度 岡崎市の教育予算

コロナ禍を乗り越え 一歩先の暮らしを見据えた魅力あるまちづくりを進める予算

〈教育費の内訳〉 令和4年度 134億8,219万

〈一般会計予算〉 令和4年度 1,278億8,000万



(単位 円)

◆ 令和4年度 主な拡充事業

【拡充事業】

○校内フリースクール（F組）を8校から14校へ拡充
…南中、竜海中、葵中、城北中、矢作北中、新香山中

☆F組を中心として全学級における子供の多様性を認める温かい居場所づくり

☆教室復帰でなく、社会的な自立を目指した支援の充実

☆校内フリースクール利用生徒の自己肯定感や自尊感情の向上

☆個の学習状況に応じた指導や配慮の充実

○スクールソーシャルワーカーの配置拡大 7人→11人

☆複雑な家庭環境に起因した長期欠席への対応の充実

☆児童虐待、ヤングケアラー等の課題への対応の充実

☆アセスメントやケース会議等、学校への具体的支援の強化・充実

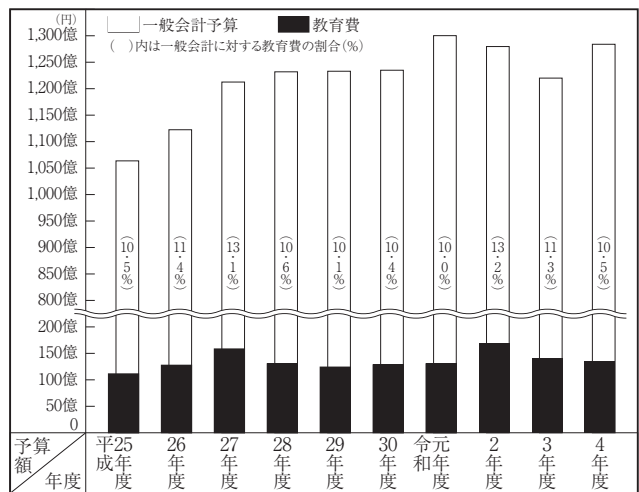
○市内全中学校の普通教室に電子黒板を整備

☆オンライン授業・デジタル教科書・プログラミング学習・サイエンスセミナー等ICTを活用した質の高い学びの提供

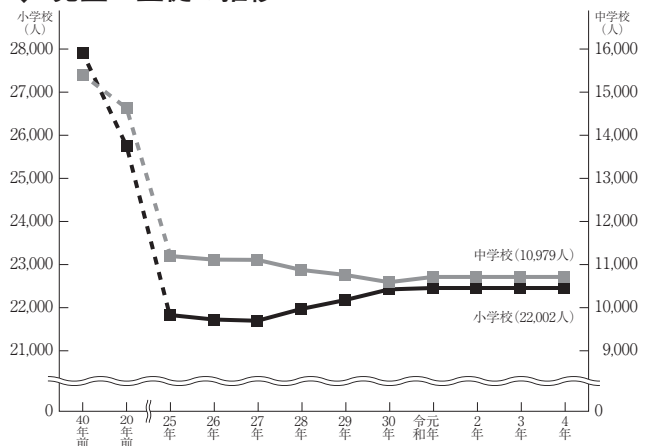
○未来型教育の推進 岡崎市32人学級プロジェクト

☆令和5年度は小学1年生、令和6年度は1・2年生と、毎年1学年ずつ段階的に市内小学校において32人学級編成を進める。

◆ 一般会計予算と教育費の推移



◆ 児童・生徒の推移 (数字は毎年5月1日現在)



教職員の相談窓口

【対象】 全教職員 【相談内容】 勤務のこと・家庭のこと・心や体のこと 等

番号	相談窓口	電話番号	相談受付日時
1	岡崎市教職員相談ダイヤル	0564-64-3322	火曜日～金曜日 12:00～19:00 土曜日 12:00～16:30
2	岡崎市こころのホットライン	0564-64-7830	月曜日～金曜日 13:00～20:00
3	愛知県総合教育センター教育相談	0561-38-2217	月曜日～金曜日 9:00～16:00
4	あいちこころのホットライン365	052-951-2881	年中無休 9:00～16:30
5	名古屋いのちの電話	052-931-4343	年中無休 24時間

・カ
ツ
ト

形
塾
小
大
竹
紗
弥
加

第1回 学区文化祭 (昭和48年)

写真提供：愛宕小学校

第一回学区文化祭では、学区内から集められた文化作品と共に、児童の書き初めや図工作品、家庭科作品が展示された。

愛宕小学校では、地域が主体となつて、学区内の文化的な芸術作品を集めて学区文化祭を行い、地域の親睦と交流を深めてきた。それらと並んで展示される児童の作品にも多くの方が足を止め、時間をかけてじっくり鑑賞される様子は、半世紀近くを経た現在も変わらない。

岡崎の子供たちは、学区の方の温かさに包まれ、健やかに成長していく。子供を地域全体で見守る岡崎の教育風土は、時代に合わせて形を変えながらも、確かに脈々と受け継がれている。



トライを決めるために、十五人が力を合わせて戦うスポーツ、ラグビー。中学卒業後にラグビーを始め、日本代表にまで上り詰めた田村選手は、多くのよき指導者との出会いが財産となったと語る。

一人一人を大切に、出会えてよかったと言われるような教師でありたい。

ど ホ ツ

水無月



▲プール掃除(常磐東小)

梅雨の晴れ間から覗いた太陽の日差しが、本格的な夏の到来を感じさせる。コロナ禍の影響で、ここ二年、子供たちは思い切り泳ぐ経験ができなかった。

今年の夏こそは、とプール掃除をする手に自然と力がこもる。子供たちの笑顔と歓声でプールが賑わうことを願う。



*フツの会社員だった僕が青山学院大学を箱根駅伝優勝に導いた47の言葉 原 晋
アスコム ￥1,430

心に残った一文
陸上界の常識を打ち破ることができた

小中学校の部活動の在り方は大きな変革期を迎えている。今までの方法では成果を出すことが難しい。著者が我々に伝える47のメッセージには、これからの部活動指導のヒントが詰まっている。

どん底に落ちた社会人としての経験を青山学院大学駅伝部の「人を育てる指導法」につなげた手腕。ビジネスとグラウンドを結び付け、人と組織を強くするノウハウ。「根性だ」「気合だ」「黙々と走れ」といったこれまでの常識を打ち破る著者の言葉には説得力がある。

明るく元気に努力して、最後は「なんとかなるさ」と楽観的に構える。この思いが、大きな改革を支え、学生の意識の変化につながったのではないだろうか。

- *ママがもうこの世界になくても 遠藤 和
小学館 ￥1,650
 - *言いかえ図鑑 大野 萌子
サンマーク出版 ￥1,540
 - *私が見た未来 完全版 たつき 諒
飛鳥新社 ￥1,091
- 夏山小学校 細井 太郎